

「中海の利活用に関するワーキンググループ」の検討状況について

【ワーキンググループ概要】

趣旨： 関係機関が集まり、ともに未来に向かって中海の豊かな自然の恵みを享受・活用し、継承していくための取組みを考え、「利活用アイデア」として提案をまとめる。

【これまでの開催経過】

	開催日	内容
打合せ会	H22. 6. 22	設置の趣旨、参加する機関・部署、検討の方向性等について確認、意見交換。
第1回	H22. 9. 2	設置要綱を確認。検討の方法等を協議、まずは検討の柱5つを以下のとおり設定。 (テーマ：一体感の醸成“中海でつながる”水面のスポーツ利用“中海に親しむ遊ぶ”海藻の利用“中海で循環する”食文化“中海の恵みをいただく”環境学習“中海を知る”)
第2回	H22. 11. 8	現在取組まれている既存事業等を整理。検討の方法を確認し、テーマ毎にアイデア出しの作業を進める。
第3回	H23. 3. 17	各機関からの利活用アイデア(たたき台)を集約。内容を吟味し、方向性について確認。
第4回	H23. 6. 29	利活用アイデア(たたき台)について、既存事業・既存団体との関わりや実現可能性、経費面など、個別具体的な内容について検討し、効果・波及度、実現性が高いもの(既の実施中を含む)などをセレクト。
第5回	H24. 3. 14	利活用アイデアの取組み状況の整理と検討方針の確認。
第6回	H24. 7. 9	利活用アイデアの取組み状況の整理と検討方針の確認。
第7回	H25. 3. 18	利活用アイデアの状況及び今後の推進方針等を確認。また、中海利活用WGの今後の進め方について協議。
第8回	H25. 5. 1	第7回WGにおいて協議した今後の進め方について再協議。WGで提案された利活用アイデアだけでなく、他団体で取組まれている内容も一覧にして会議へ報告することを確認。
第9回	H26. 7. 4	利活用アイデアの取組み状況の整理と検討方針の確認。
第10回	H27. 6. 26	利活用アイデアの取組み状況の整理と検討方針の確認。今後のアイデアの取り扱いについて方向性をまとめていくことを確認。
第11回	H28. 5. 24	WG構成員に島根県商工労働部観光振興課を追加。利活用アイデアの取組み状況を確認し、提案内容を整理することを確認。
第12回	H29. 6. 14	利活用アイデアの取組み状況の整理と検討方針の確認。
第13回	H30. 6. 7	利活用アイデアの取組み状況の整理と検討方針の確認。

中海の利活用

中海で遊ぶ～中海のスポーツ利用～

①中海周遊サイクリングの推進

(中海周遊サイクリングを活用し、「サイクリングの聖地」としてイメージアップを図る)

②マリンスポーツ・レクリエーションの推進

(マリンスポーツなどが楽しめるエリアとしPRするとともに、周辺環境の整備を行う)

中海を観る～中海の観光利用～

③中海周辺観光

(自然豊かな中海を活かした観光の振興を図る)

中海を活かす～中海資源の活用～

④水産資源の活用・回復

(中海の各種水産物を使ったメニューを開発し、中海産品の復権を目指す)

⑤中海の「藻」の活用

(海藻を回収して産業などへ利用することにより、中海の藻の循環システムを構築する)

⑥大型水鳥類との共生に着目した流域づくり

(大型水鳥類が安定的に生息可能な潜在性を活かし、大型水鳥類をシンボルとした観光振興を推進する)

中海を知る～環境教育～

⑦中海を題材とした環境教育

(次世代を担う子供たちの中海に対する意識を高め、ワイズユースを持続させる)

中海でつながる～一体感の醸成～

⑧ラムサール条約普及啓発の取組

(中海の豊かな自然・環境を守り、育て、次代につなげる取組みを進める)

⑨中海ワイズユース住民活動の推進

(住民自身が未来志向で実施する中海のワイズユースに資する企画を支援)

中海の活用マップ



①中海周遊サイクリングの推進

中海周遊サイクリングを活用し、「サイクリングの聖地」としてイメージアップを図る

1 目的

景観や観光資源等に優れた中海周辺を、地元住民から海外の来訪者までがサイクリングで楽しめるよう周遊コースを提示し、認知の向上を図るなど、豊かな水辺環境を実感できる環境を鳥取・島根両県で一緒につくり、中海が「サイクリングの一大聖地」となることを目指す。

2 取組みの成果

(1) 中海周遊サイクリングコース

- ・平成26年8月に設定した全長約72kmのサイクリングコースについて、路面標示等の整備や、中海周辺の観光地や景観地を紹介したサイクリングマップの作成などにより、利用者の利便性向上を図ってきた。
- ・近年、一部が全国規模のサイクリング大会のコースとなるなど、年々その認知度が向上している。
- ・伯耆国「大山開山1300年祭」記念イベントとして「弁慶ライド2018」が、大山を発着点に、出雲市鱒淵寺を周回（中海周遊サイクリングコースの一部を走行）する総距離200kmを超えるコースで開催された。

(2) 広域サイクリングコース

- ・鳥取、島根、広島、愛媛の4県を結ぶ広域サイクリングルート*（全長380km）を平成29年5月に設定し、それに併せてマップを作成した。

※山陰ルート（70km）～やまなみ街道ルート（187km）～しまなみ海道サイクリングロード（69.9km）～今治・道後はまかせ海道（52.1km）

(3) サイクリングエイドの登録整備

- ・鳥取県では、レンタサイクル等総合拠点「コグステーション」及び「サイクルカフェ」を整備してサイクリスト支援体制「ダイジョウブシステム」を構築。また、鳥取県と包括協定を結ぶコンビニエンスストア2社の県内店舗の一部を「サイクルポート」として整備。
- ・島根県では、平成28年度に「ご縁サイクルステーション」（サイクリストの休憩所）制度を創設。道の駅、宿泊施設、コンビニエンスストアを中心に島根県東部地域で141施設（H30.4時点）が登録されている。

3 今後の取組み

(1) 広域サイクリングコースの活用

- ・4県連携広域サイクリングルートの充実と活用、相互誘客に向けた取組みについて検討を行う。

(2) 米子市における自転車活用推進

- ・平成28年8月に自転車の活用を視点にしたまちづくりに関する研究のため、市役所庁内に「米子市自転車活用推進研究会」を設置。環境面はもとより、スポーツや観光面、あるいは健康づ

くりの面など、様々な視点から幅広く研究を重ね昨年、報告書を作成した。

- ・ 今後は研究の成果を取り入れた地域活性化や交流人口等の取組みについて検討を行う。

(3) 松江市における自転車活用推進

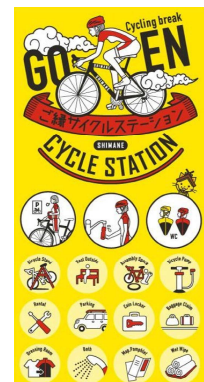
- ・ 尾道と今治に続き、松江しんじ湖温泉駅横にジャイアントストアがオープンするなど、自転車活用の機運が高まっており、「中海周遊サイクリングコース」と連携した活用を推進していく。
- ・ さらに、中海北西岸に中海振興多目的施設が完成したことから、「中海周遊サイクリングコース」の一部コースを活用し、施設を拠点として中海北部を周遊できる新たなサイクリングコースを設定するため、関係機関と調整を進めている。

4 これまでの取組み

年度	取組状況
H22	「サイクリングロード整備検討会」（鳥取県組織）を設置
H23	「宍道湖・中海サイクリングロード連絡調整会議」（島根県組織）を設置
H24	専門家による検討中コースの試走（島根県）
H25	コース案について道路管理者・公安委員会等と協議
H26	サイクリングロードの環境整備(路面表示等)、サイクリングマップ完成
H29	鳥取、島根、広島、愛媛を結ぶ広域サイクリングルートを設定



サイクルカフェ
(鳥取県)



ご縁サイクル
ステーション
(島根県)

②マリンスポーツ・レクリエーションの推進

マリンスポーツなどが楽しめるエリアとしてPRするとともに、周辺環境の整備を行う

1 目的

自然豊かな中海及びその周辺環境を活かしてマリンスポーツ・レクリエーションが楽しめるエリアを形成し、その活用によって周辺住民の福利を増進させる。

また、スポーツイベントなどを通じて圏域外に中海をPRすることにより来訪者の増加を促進し、中海圏域の振興を図る。

2 取組みの成果

平成29年度に開催した中海オープンウォータースイム、なかうみマラソン全国大会では、東は茨城県、南は大分県の全国各地から多くの参加があり、中海圏域の情報を広く全国へ発信する格好の場となっている。

また、中海・宍道湖レガッタは、中海周辺住民を中心に参加があり、心身の健康増進や幅広い年齢層による参加者間の交流が進んでいる。

なお、なかうみマラソン全国大会の参加者数は第1回大会（H17）の2,515人から、回を重ねるごとに増加し、第13回大会（H29）では4,765人が参加する山陰を代表するマラソン大会に成長している。

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
中海オープンウォータースイム（人）	110	163	167	185	199	195
中海・宍道湖レガッタ（クルー）	54	51	22	56	43	63
なかうみマラソン全国大会（人）	5,479	4,967	4,996	5,305	4,907	4,765



中海・宍道湖レガッタ



なかうみマラソン全国大会

3 今後の取組み

（1）各種イベントの開催

①中海オープンウォータースイム2018

- ・開催日：H30.6.24 場所：米子湾、米子市湊山公園 参加者数：168人
- ・NPO法人中海再生プロジェクトが、スローガンである「10年で泳げる中海」をNPO活動10年目の平成23年に実現。
- ・オープンウォータースイミングは平成20年北京五輪から正式種目になった競技。
- ・本年度は、ユニバーサルツーリズムの取組みの一環として障がい者枠を設け、障がい者参加への環境を整備して開催。

②中海・宍道湖レガッタ

「第3回中海・宍道湖全国小中学生交流レガッタ大会」

- ・開催日：H30. 9. 2 場所：米子市湊山公園内 錦海ボートコース
- ・小中学生を対象とした4人漕ぎボートのレース。

「第4回中海・宍道湖レガッタ」

- ・開催日：H30. 9. 2 場所：米子市湊山公園内 錦海ボートコース
- ・今年度は、全国小中学校レガッタと同時開催。

③なかうみマラソン全国大会

- ・開催日：H30. 11. 4 場所：安来市中海湖岸 予定参加者数：約5,000人
- ・平成17年から開催し、今年度14回目となる。
- ・景観の美しい中海湖岸を走る、山陰最大級の市民マラソン。

④国宝松江城マラソン2018

- ・開催日：H30. 12. 2 場所：松江市 予定参加者数：約5,000人
- ・島根県内で14年ぶりとなるフルマラソンを開催。
- ・国宝松江城、宍道湖を巡り、東進して中海へ向かい、中海北岸を周回するコース設定。

(注) 上記の他、「中海ペーロンフェスティバル」、「境港ボートマラソン大会」、「全山陰マスターズレガッタ」、「境港ボートレース大会」等、多くのマリンスポーツが行われている。

(2) マリンスポーツ・レクリエーションの拠点づくり

①カイトボードゲレンデの周辺整備（一例）

- ・安来市飯梨川河口は、カイトボードの西日本有数のゲレンデであり、関西や中国地方一円から愛好者が来訪している。
- ・平成28年度に、ゲレンデ周辺に安来市、出雲河川事務所が協力して駐車場を整備した。
- ・平成29年度は、漁業者とマリンスポーツ愛好者が気持ちよく水辺を活用できる「飯梨川河口ルールマップ」を作成し配布した。
- ・野鳥や漁業との共存、トイレ等の周辺整備、情報発信が今後の課題である。



安来市飯梨川河口

※カイトボード：専用のカイト（凧）を用いて、ボードに乗った状態で水上を滑走するウォータースポーツ

4 関連するアイデア

(1) 環日本海国際トライアスロンin中海

- ・「全日本トライアスロン皆生大会」の姉妹大会として「中海トライアスロン」を創設。「中海湖周遊コース」を設定して、新たな風景（江島架橋、中海大橋、風車、大山、中海等）を感じ、実際に中海を泳ぐことで水質を実感してもらう。

③中海周辺観光

自然豊かな中海を活かした観光の振興を図る

1 目的

平成17年に国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録された「中海」は、平成29年に魅力的な地形・地質・自然遺産と伝統・歴史・文化が認められ「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」として日本ジオパークに認定された。

この「中海」が持つ、貴重な自然環境や自然遺産を活かし、水辺環境を満喫しながら周遊できる環境づくりなどを通じた観光の振興を図る。

2 取組みの成果

日本ジオパークに認定された「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」の魅力を展示などで分かりやすく伝える「松江ビジターセンター」を開設した。また、ジオパークの雄大な景色を空から楽しめる水陸両用機の運航が、中海西岸に整備された中海振興多目的施設を拠点に開始された。

平成29年7月に設立した「中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構」では、中海・宍道湖・大山圏域市長会とブロック経済協議会等が連携し、圏域の観光振興事業を実施している。

3 今後の取組み

(1) 水陸両用機による遊覧飛行の取組み〔民間〕

・松江市の中海北西岸に、水陸両用機の拠点施設が完成したところであり、中海を拠点にした水陸両用機による遊覧飛行と連携し、中海周辺地域の交流人口の増加を図る。

(2) 島根半島・宍道湖中海ジオパークの取組み

・島根半島・宍道湖中海ジオパークでは、国内最大の連結汽水湖である中海・宍道湖も重要な取り組みエリアとなっており、ジオサイト(ジオパークのポイント)と観光地をつなぐ観光振興、ジオ学習会等による環境保全教育を進める。

(3) EVカーの普及啓発

・圏域内の急速充電スタンド設置箇所、急速充電スタンド設置箇所一覧、EVでまわるおすすめドライブコースなども掲載した「中海・宍道湖・大山エリアEVドライブガイド」を活用し、普及啓発に努める。

(4) インバウンド対策

・増加している外国人観光客の利便性向上等を図るため、外国語によるコミュニケーションの円滑化への取組みをはじめ、外国語版観光パンフレット及び飲食マップの作成、観光案内所の機能を充実させるなど受入環境整備を引き続き実施する。
・また、更なる外国人観光客の誘客を図るため、圏域インバウンド機構の英文ホームページによる情報発信などを引き続き実施する。

4 これまでの取組み

(1) 急速充電器の設置

中海・宍道湖・大山圏域市長会：4カ所

(皆生温泉観光センター、境港市役所、松江市役所、道の駅「あらエッサ」)

松江市：2カ所（道の駅「本庄」、道の駅「秋鹿なぎさ公園」)

米子市：1カ所（米子市役所第2庁舎）

その他：くにびきメッセ、島根県立浜山公園、山陰自動車道宍道湖SA上り・下り、由志園、自動車販売会社、コンビニ、鳥取県西部総合事務所など



(2) 中海を彩る花火大会

・中海の夜空と海上を美しく彩る花火大会が行われ、圏域内外から多くの観光客が訪れる夏の風物詩となっている。

米子市：米子がいな祭（米子港・湊山公園）

境港市：みなと祭（境水道）

安来市：やすぎ月の輪まつり（安来港）

5 関連するアイデア

(1) ECO シップコンテスト in NAKAUMI

・中海周辺には、電気関係事業や高等教育機関、エネルギー施設等、「電気」にまつわる関連事業が集積している。このことから、環境にやさしい「電気」と「水」をテーマとした、中海で利用の多い「小型船」「ボート」を対象とした開発参加型の大会を創設する（「琵琶湖の鳥人間コンテスト」に対抗）。人力発電部門、ソーラー船部門などを設けるなど趣向を凝らす。

(2) 中海周遊船の運航

・中海を両県にまたがって周遊する観光船の運航。

④水産資源の活用・回復

中海の各種水産物を使ったメニューを開発し、中海産品の復権を目指す

1 目的

中海の水産資源の回復のため、中海でかつて多く水揚げされ、地域の食文化を形成していた中海の各種水産物を使ったメニューを開発し、食文化を復活させる。

また、環境や社会に配慮したメニューを「エシカル[※]フードとして提供して、環境意識の醸成を図る。

※エシカルは、「倫理的な」「道徳的な」という意味だが、最近では「地球環境や社会に配慮している」という意味で使用されている。

2 取組みの成果

(1) 中海の水産資源を活用した新商品の開発・発売

- ・中海産オゴノリ入りクッキー
- ・スジアオノリ入りようかん
- ・赤貝の身やエキスをういた炊き込みご飯の素
- ・中海産赤貝の旨煮
- ・中海産赤貝の煮付け、酒蒸し

(2) 水産資源の回復

	H26	H27	H28	H29
サルボウガイの復活 (t)	2.7	4.2	7.0	7.0
アサリのカゴ養殖 (kg)	350	400	450	450
ウナギの稚魚放流 (匹)	7,000	28,800	27,700	32,400

3 今後の取組み

(1) サルボウガイ復活への取組み

- ・島根県・中海漁協・安来市及び松江市による種苗の安定確保試験、延縄式カゴ垂下養殖試験などを継続して実施し、低コスト化及び大量生産を目指す。
- ・中海漁協では、平成29年度7トンの生産量を、平成30年度は10トンまで延ばすことを目標にしている。

(2) アサリのカゴ養殖

- ・中海漁協では、松江市の補助事業を活用して養殖施設を拡充しており、平成29年度450キロの生産量を、平成30年度は500キロまで延ばすことを目標にしている。

(3) ウナギの稚魚放流

- ・松江市が（公社）島根県水産振興協会へ委託し、昨年度に引き続き稚魚を放流する。

(4) 地熱資源の利活用

- ・地熱ポテンシャル調査により、地熱の潜在能力が高い結果を得た中海エリアで、松江市と島根大学が地熱資源を中心とした地域エネルギーを産業に活用するための共同研究を実施する。
- ・地熱資源を活用した「モロゲエビ（中海十珍）」の養殖技術開発など産業の活性化に繋がる様々な研究を実施する。

4 これまでの取組み

(1) 中海食材の提供

- ・島根県庁食堂で中海の食材を使ったメニュー案を策定。
- ・第2回中海会議から、中海食材を使った料理を提供し試食（赤貝めし弁当、スズキの昆布締め等）。
- ・平成24年大会から「中海OWS」参加者へ、中海食材を使ったアサリ汁等の料理を提供。

(2) 中海食材の開発に関連する取組み

①民間事業者による中海食材の加工品販売

- ・松江市内のパン店で中海のオゴノリを練り込んだクッキーを販売。販売額の一部はNPOに寄附され、中海の環境改善等に役立てられる。
- ・道の駅本庄でスジアオノリ入りようかんを販売。
- ・松江市の「まつえ農水商工連携事業」を活用し、出荷規格に満たないサルボウガイを加工してレトルトパックにした「中海産赤貝の旨煮」を開発し、道の駅「本庄」、大根島直産市などで販売。

②サルボウガイ復活への取組み

- ・県水産技術センター、中海漁協、安来市及び松江市の4者は連携してサルボウガイの種苗確保のため天然採苗や人工採苗に取り組み、安定的に種苗を確保することが可能となった。
- ・平成24年度から、中間育成後の放流を取りやめ、漁業者による延縄養殖施設でのカゴ養殖試験を実施し、生産量の増加につながった。
- ・かご垂下養殖におけるフジツボなどの付着物除去作業軽減のため、改良型コンクリートミキサーを試験導入。
- ・サルボウガイカゴ養殖についてのマニュアル（天然採苗、種苗生産、養殖）の作成。



サルボウガイのカゴ養殖



サルボウガイの人工種苗の生産

⑤中海の「藻」の活用

海藻を回収して産業などへ利用することにより、中海の藻の循環システムを構築する

1 目的

かつて肥料や食用加工品として採取されていた海藻を「未利用資源」ととらえ、新しい産業へ結びつける。

海藻を回収し湖外へ搬出することにより水質浄化につなげるとともに、有機肥料などの原材料として使用することで、水質浄化と産業創出を兼ね備えた資源循環の仕組みを構築する。

2 取組みの成果

(1) 循環型ビジネスの起業

- ・島根大学と連携し、海藻を使った肥料の製造、販売に取り組むベンチャー企業「なかうみ海藻のめぐみ」が創業。
- ・中海の水質汚濁の一因となっているオゴノリを回収・加工して肥料を製造。

(2) 未利用資源の活用と食育・環境教育の充実

- ・海藻肥料を使い栽培した「海藻米」を、平成27年度の二学期から境港市の学校給食に使用。
- ・「海藻米」は、日野川上流の日野町を中心に栽培されており、日野川の上流と下流が連携することで、食育・環境教育の充実が図られている。

(3) 海藻米のブランド化、販路開拓

- ・平成28年10月に、米子高島屋が「鳥取海藻米」の名称で全国販売を開始。また「瑞風」の乗客に向けた販売をするなど、海藻米のブランド力向上及び販路開拓に期待が高まる。

3 今後の取組み

(1) 循環型ビジネスの起業

「海藻刈りによる栄養塩循環システム自立支援事業（鳥取県）」

- ・海藻を刈取り利活用業者へ引渡し、海藻肥料等に加工した上で、農地で利用。
- ・栄養塩循環システムモデルを持続可能なものとするための課題は以下のとおり。
 - ①海藻の繁茂が年によって大きく異なる傾向があるとともに、消長が短いものがあり、その把握が必要。
 - ②乾燥は天候の影響を受けやすく、乾燥技術の確立が必要。
 - ③安定した製造原価の確立、回収コスト及び製造コストの削減。
 - ④販路拡大、ブランド力アップ、他の堆肥等との差別化、原材料の安定供給。

(2) 未利用資源の活用と食育・環境教育の充実

- ・引き続き、境港市の学校給食として「海藻米」を使用。
- ・中海産海藻肥料による農業改革セミナーを開催。
- ・平成28年度から、鳥取・島根広域連携協働事業を活用し、鳥取県、島根県の民間団体2者により、「藻が～る一鬼太郎もびっくり！ご縁を結ぶ中海のお・ご・の・りー」を実施。平成28年度に事業計画を策定し、昨年度は、海藻刈りの環境学習、海藻刈り体験を開催し、その取組みについて情報発信を行った。

4 これまでの取組み

(1) 海藻刈りによる栄養塩循環システムモデル構築事業

- ・認定NPO法人自然再生センター（島根）、海藻農法普及協議会（鳥取）に海藻の回収作業を委託。平成26年度からは補助金制度として、平成29年度は海藻農法普及協議会（鳥取）の事業を支援する形で継続実施。
- ・回収した海藻は利活用者へ引き渡している。

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
海藻回収量 (t)	343	295	275	340	332	324	193



(2) 海藻農法による農業再生プロジェクト

- ・海藻農法導入農家50農家、導入耕地面積40ha以上。野菜市、セミナー・説明会開催。
- ・通販サイトの立ち上げ等を実施。
- ・平成26年度は海藻農法普及協議会にて海藻農法によるブランド化の取組みを推進。
- ・平成27年度から境港市の学校給食に海藻米を提供。
- ・平成28年度に海藻肥料を製造・販売する島根大学発ベンチャー企業「なかうみ海藻のめぐみ」を設立。
- ・平成29年度の海藻農法による作付面積は、水稻100ha、野菜類・果樹等で20haに拡大。

(3) 藻の回収参加型イベント

- ・平成23年度から藻刈り体験、水環境学習会、中海の幸の試食会等を実施。
- ・平成26年度からは認定NPO法人自然再生センターの自主事業として実施。上記取組に加え、海藻肥料で育てたサツマイモの芋ほり体験を実施。



	H23	H24	H25	H26	H27	H28
参加人数 (人)	30	50	70	30	40	40

- ・平成29年度は、農家を対象にした普及啓発の説明会を開催（5回、参加者延べ150名）。その他、小学生を対象にした環境学習を開催。

(4) 旧加茂川藻刈り体験事業

- ・平成23年7月の「クリーンアップin加茂川2011」に、市民、各種団体等の200名が参加。以後毎年実施。

(5) 調査研究

- ・藻の分布・現存量調査、成分分析を行い、両県行政担当者とNPO法人との意見交換を実施。
- ・肥料の施用効果について、平成23年度と平成24年度に白ネギ、トマト、サツマイモへの施用効果を検証し、平成25年度からは水稻で施用効果を検証中。

⑥大型水鳥類との共生に着目した流域づくり

大型水鳥類が安定的に生息可能な潜在性を活かし、大型水鳥類をシンボルとした観光振興を推進する

1 目的

中海を含む斐伊川水系は、我が国を代表するガン類・ハクチョウ類・ツル類・コウノトリ・トキ等の大型水鳥類が安定的に生息可能な潜在性を有しているが、この様な豊かな環境を有する魅力ある地域であることの地域内外への効果的な発信・普及啓発などに課題がある。

については、この大型水鳥類を指標とした、水辺環境の保全・再生と地域経済の活性化が両立した生態系ネットワークの形成を目指すことにより、観光振興等を推進する。

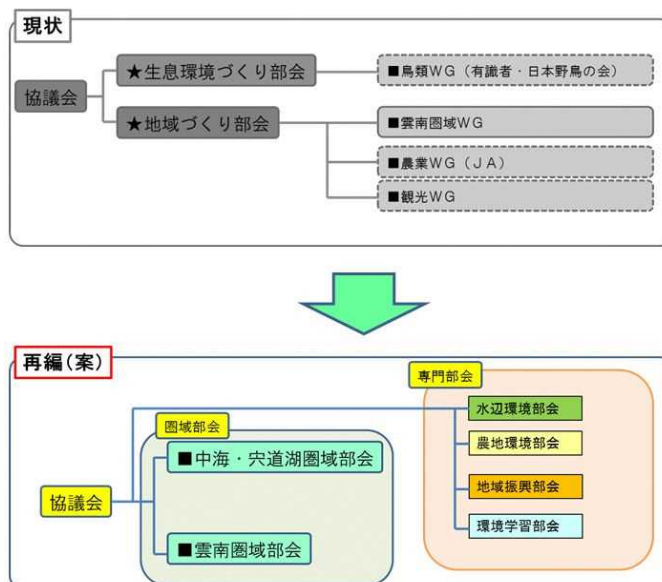


2 取組みの成果

(1) 生態系ネットワーク協議会

・大型水鳥類を指標とする生態系ネットワークの形成を通じた地域活性化及び経済振興の実現を図るための効果的方策について検討することを目的として「斐伊川水系生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会」および「生息環境づくり部会」「地域づくり部会」を設置し検討。

今後は、より具体的な活動を実施するために平成30年度に部会の再編を予定しており、第5回協議会により承認済。



- ・生息環境づくりに向けた取り組みとして、先行して保全・整備を進めていく事業候補地（出雲エリア）において、マコモの植栽や湿地の再生等に着手。中海周辺についても生息環境向上の可能性について検討に着手。



- ・地域づくりについて、平成28年度に「観光」と「農業」を柱とした地域振興を展開していくことを決定。

観光分野については、（株）一畑トラベルサービス企画のもと、野鳥観察ツアーを平成30年2月に実施。農業分野については、JAしまね出雲地区本部における勉強会を平成29年6月に実施。

開催概要

- ◆名称 野鳥の楽園観察会ツアー
- ◆目的 一般を対象とした着地型旅行の実践
- ◆日時 平成30年2月24日(土)12:00～19:25
- ◆場所 出雲市 斐伊川河口周辺
- ◆旅行代金 8,900円(税込)
- ◆参加者 13名
- ◆講師 鳥栖自然保護協会 事務局長 野津登美子氏
公益財団法人 日本生態系協会 佐藤伸彦
- ◆旅行企画・実施 株式会社 一畑トラベルサービス
- ◆旅行企画・協力 一般社団法人 出雲観光協会
- ◆特別協力 斐伊川水系 生態系ネットワークによる大型水鳥と共に生きる流域づくり検討協議会
公益財団法人 日本生態系協会

ツアーのチラシ

ツアーの立ち寄り地

当日の行程

【JR出雲市駅】⇒⇒【道の駅湯の川】⇒⇒【四季荘(船庫)】⇒⇒【雲南市加茂町】⇒⇒【鳥ヶ崎(穴道湖ふれあいばー)】
 集合 参加者合流 昼食・事前学習 コウノトリの観察 湖岸散歩・穴道湖の水鳥観察

⇒⇒【穴道湖グリーンパーク】⇒⇒【斐伊川河口周辺の水田】⇒⇒【道の駅湯の川】⇒⇒【JR出雲市駅】
 展示の見学・野鳥観察 水田の水鳥観察・ねぐら入りの見学 参加者下車 解散

コウノトリを観察する参加者(雲南市)

バスの中からマガンの群れを観察(出雲市)

穴道湖グリーンパークでかま観察

マガンのねぐら入り(出雲市)

開催概要

◆日時 平成29年6月5日(月)18:00～19:00

◆会場 JALまね出雲地区本部 会議室

◆出席者 約130名

◆議題

・講演1「斐伊川水系生態系ネットワークの取り組みについて」

出雲河川事務所 計画課長 小谷哲也

・講演2「大型水鳥類を活かした

ブランド米による農業活性化の可能性」

公益財団法人 日本生態系協会 事務局長 関健志



講演実施風景

◆講演の概要:

最初に、出雲河川事務所より、生態系ネットワークの概略と、斐伊川水系における生態系ネットワークがめざすものや、指標とする5種群の大型水鳥類について紹介した。

次に関氏より、生態系ネットワークの考え方について補足したのち、大型水鳥類と農業との関わり合い、自然を活かした地域活性化について、北海道や宮城県、兵庫県などの、大型水鳥類と共生した農業や地域づくりの先行事例を紹介。さらに、斐伊川水系流域の自然環境の特異性についても触れつつ、自然を守り活かした持続可能な地域づくりの面白さ、地域づくりに向けさらに取り組んでいきたいこと等について、講演を行った。

講演スライド(一部)



3 今後の取組み

- ・ 生息環境づくりについて、大型水鳥類の生息環境を形成するための自然再生計画を策定予定。
- ・ 平成30年度中に部会の再編を行い、中海・宍道湖圏域部会を立上げ、具体的な活動に着手する。

4 これまでの取組

- ・ 第1回協議会 平成27年4月28日
- ・ 第2回協議会 平成27年10月13日
- ・ 第1回生息環境づくり部会 平成27年12月18日
- ・ 第1回地域づくり部会 平成28年1月29日
- ・ 第2回生息環境づくり部会 平成28年2月8日
- ・ 第3回協議会 平成28年2月22日
- ・ 第2回地域づくり部会 平成28年12月15日
- ・ 第3回生息環境づくり部会 平成29年1月12日
- ・ 第4回協議会 平成29年3月15日
- ・ 第3回地域づくり部会、第4回生息環境づくり部会の合同開催 平成30年2月15日
- ・ 第5回協議会 平成30年2月27日

⑦ 中海を題材とした環境教育

次世代を担う子供たちの中海に対する意識を高め、ワイズユースを持続させる

1 目 的

次世代を担う子供たちに対し、中海を題材とした環境教育を行うことにより両県共通の貴重な財産である中海に対する意識を高め、「賢明な利用（ワイズユース）」を将来にわたり持続させる。

2 取組みの成果

各NPO法人を中心に、中海を題材にした様々な環境教育が実施されており、地元への愛着、環境への理解が促進され、また、中海の水質調査、水質浄化体験などを通し、中海の水質に関する意識が高められるなど、次世代を担う子供たちの意識の向上が図られている。

NPOの活動は、表彰を受けるなど高い評価を受けている。

①スジアオノリの養殖・加工・・・生物多様性アクション大賞2015入賞（環境省）

第8回こどもエコグランプリにおいてグランプリ受賞
（日本海テレビ主催）

②オゴノリ刈りと海藻肥料によるサツマイモ堀体験

・・・生物多様性アクション大賞2014審査委員賞受賞（環境省）

3 今後の取組み

（1）NPO法人等の取組に対する支援

・NPO法人主体の各種取組みに対して、両県協働の補助金や、「鳥取県環境保全活動支援補助金」など各種補助金の交付、取組みへの参加を通じて支援する。

（2）湖沼環境モニターの実施

・県民モニターの五感（見る・聞く・触れる・臭う・味わう）による湖沼環境の調査を実施し、地域住民が取り組む清掃活動や自然再生に向けた活動などの効果及び流域住民が湖沼に親しみを感じられる指標作りに取り組む。

（3）環境学習会の開催

・子どもから大人まで多くの方々に、中海・宍道湖両湖に触れて、現状を体感してもらうことにより、水辺に親しみをもち、関心を深めてもらうとともに、水質保全等の環境意識を高めるため、シジミ取り、藻刈りなどの環境学習を実施する。

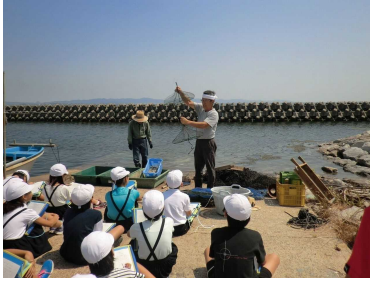
（4）イベントの継続実施による意識の向上

・これまで実施してきたイベントを継続して実施し、中海に対する意識を更に高める。

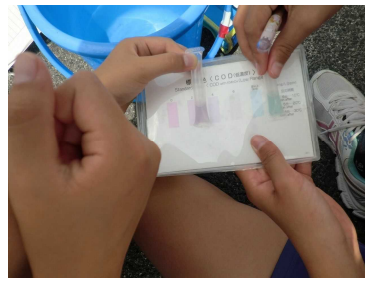
4 これまでの取組み

(1) 小学生による「大好き中海」学習〔認定NPO法人自然再生センター〕

- ・松江市意東小学校5年生を対象に、中海についての歴史や自然の学習を通して、中海について興味を持ち、ふるさとの自然や環境を守る心を育てる体験学習を実施。



赤貝養殖の現場見学



水質調査



伝統料理「赤貝の殻蒸し」作り

(2) 中海の海藻（オゴノリ）で自然循環を学ぶ〔認定NPO法人自然再生センター〕

- ・松江市八東学園の児童を対象に、資源循環の重要性や湖沼環境が改善されることの意義について理解を深めることを目的とした体験学習を実施。



オゴノリに生息する生き物の調査



オゴノリを畑の有機肥料として利用

(3) 中海てがみコンクール〔NPO法人中海再生プロジェクト〕

- ・市民に中海の美しさ・すばらしさを再発見してもらい、その思いを絵てがみとして表現してもらうことで、更に多くの方に中海の価値を伝える。

(4) 中海体験クルージング・中海環境フェアinよなご〔NPO法人中海再生プロジェクト〕

- ・市民に中海の浄化・活性化を呼びかけることを目的に、ヨット・クルーザーによる中海周遊と同時に、参加者に五感で楽しく中海を知ってもらうため、中海の魚や鳥、環境についての展示見学を実施。

(5) アマモ場の保全・再生の取組〔NPO法人未来守りネットワーク〕

- ・平成17年度から、かつての美しい中海、漁業資源の豊富な中海を取り戻すため、アマモ場を復活させる活動として種子採取、勉強会、移植イベントを開催。

(6) 水質浄化体験イベント〔湖底こううん隊〕

- ・米子市内の有志が平成26年に「湖底こううん隊」を設立し、米子市湊山公園において、中海周辺の親子ら地域住民を対象に水質浄化の手段としての「湖底こううん」の効果を検証するイベントを開催。

(7) ラムサール条約登録湿地・中海子どもパークレンジャー〔環境省中国四国地方環境事務所〕

- ・ラムサール条約登録湿地である国指定中海鳥獣保護区において、子どもたちを対象に自然体験活動等を通じて、生物多様性についての理解を深め、自然の大切さを知ってもらい自然を守る心を育むための事業を実施。

5 関連するアイデア

(1) 高等教育機関と連携した人材育成

- 大学と行政が連携して、中海に愛着や興味がある人などを対象に、人材育成講座、コンシェルジュ養成講座を開催する。一定期間継続して開催し、修了者には証書や称号など(『中海の達人』『中海案内人』『中海の料理人』など分野に応じて)を授与する。
- 中海に関する「学び」を通して、受講者に生涯学習的な充実感を得ていただくとともに環境への意識を高め、地域への愛着を深めてもらい、環境活動等の場で活躍してもらおう。

⑧ラムサール条約普及啓発の取組

中海の豊かな自然・環境を守り、育て、次代につなげる取組みを進める

1 目的

鳥取・島根両県で地域住民や次世代を担う子どもたちの参加型普及啓発事業などにより「交流・学習」を行い、貴重な財産である中海・宍道湖の「保全・再生」と「賢明な利用（ワイズユース）」を促進する意識を醸成する。

2 取組みの成果

15年ぶりの全国規模のシンポジウムとなる「ラムサールシンポジウム2016in中海・宍道湖」を開催し、両県民に対し中海が学術的にも貴重な湿地であることを啓発した。

平成28年5月に、情報発信掲載の利便性、迅速性、発信力（情報の広がり）を強化する観点から、インターネットホームページから、フェイスブックに移行し、情報発信力を強化している。

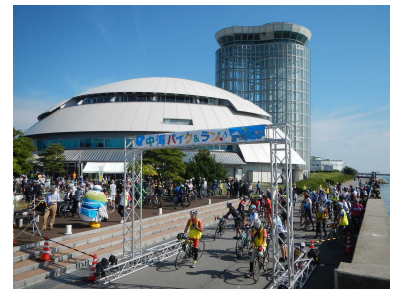
平成29年10月に「中国四国ブロックサイクリング鳥取県大会中海バイク&ラン」を開催し、地元を中心とした若い世代の親子に加え、県内外のサイクリストを迎え、中海の魅力を発信した。

3 今後の取組み

(1) 各種イベントの開催

①中海バイク&ラン

- ・スタンプラリー方式で中海周辺をサイクリング又はランニングしながら、中海を楽しむワイズユースイベントを平成27年度から実施。引き続き、中海の魅力を発信し、より一層の利活用の推進を図る。



②こどもラムサール交流事業

- ・次世代の湿地保全を担うリーダーを育成するとともに、他の登録湿地との交流ネットワークを形成することを目的として、中海・宍道湖周辺で活動する子どもたちと他の登録湿地で活動する子どもたちの交流・学習を行う。

【主な交流先】

谷津干潟（千葉県／H23）、豊岡（兵庫県／H23）、琵琶湖（滋賀県／H23）、東与賀海岸（佐賀県／H26）、チュナム貯水池（韓国昌原（チャンウォン）市／H22、27）、マイポ湿地（中国香港／H27）、昌原（チャンウォン）市（韓国／H28）、秋吉台（山口県／H29）



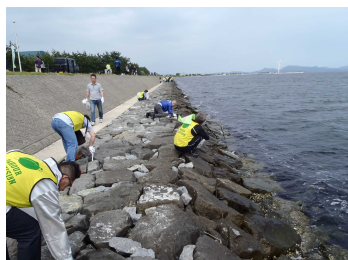
(2) ポータルサイトによる更なる情報発信

- ・従来からのインターネットやホームページによる情報発信に加え、SNSを活用して、中海・宍道湖関連催事の情報を集約して発信を行う。

4 これまでの取組み

(1) 中海・宍道湖一斉清掃

- ・条約登録の翌年（平成18年度）から鳥取・島根両県、沿岸自治体、住民等の参加により、全会場で実施日を統一（環境月間である6月の第2日曜日）して実施。
- ・昨年は約7,800人が参加し、回収したごみの量は約15.5トンとなった。



H29 みさき親水公園（安来市）

(2) 普及啓発

①シンポジウム

- ・ラムサール条約リレーシンポジウム（H23～H25両県が連携実施）
- ・ラムサール条約登録10周年記念事業ラムサールシンポジウム、ラムサールフェア（H27両県が連携実施）
- ・ラムサールシンポジウム2016in中海・宍道湖（H28環境省、鳥取・島根両県、中海・宍道湖・大山圏域市長会、日本国際湿地保全連合等で共同実施）
- ・ラムサールシンポジウム（H29／松江市）



(3) その他イベント

- ・鳥取中海SUPフェスティバル（H28年8月）
平成28年8月に開催し、県内外の多くの参加者に、中海をSUP等の水辺のアクティビティが楽しめる場所としてPRした。

⑨中海ワイズユース住民活動の推進

住民自身が未来志向で実施する中海のワイズユースに資する企画を支援

1 目的

中海圏域の住民から中海の「賢明な利用（ワイズユース）」の提案を公募するなど、住民自身が未来志向で企画を考え、実施することで、中海への関心や利活用を推進する気運を盛り上げる。

2 取組みの成果

鳥取・島根両県共通の地域課題に対するNPO等と行政とが連携した課題解決へ取組みや、「中海海開き」、「中海夕暮れコンサート」、「日本風景街道」などの住民主体の取組により地域住民の中海へ意識向上が図られている。

3 今後の取組み

（1）日本風景街道活動の推進〔湖水街道推進会議〕

- ・県が整備したルート案内看板、二十社寺案内看板、道の駅ブース等を活用し、地域にある豊かな自然や歴史的資源を道路利用者が体感し楽しむための地域づくり活動を、推進団体である湖水街道推進会議と行政が一体となって推進。

（2）中海夕暮れコンサート〔中海夕暮れコンサート実行委員会〕

- ・中海の夕日のすばらしさを実感して「未来の中海の姿」を思い描いてもらう機会の創出を目的に、5月下旬から9月下旬にかけて土曜日の夕暮れ時に中海湖岸でコンサートを開催（平成19年度から毎年開催、平成30年度は3回開催予定）。



（3）ミズベリング・プロジェクト〔国土交通省〕

- ・水辺の新しい活用の可能性を創造し、賑わいと活力ある水辺とまちづくりを目指す取組みを通じて、ワイズユースを促し、住民の活動への参加を推進し水辺とつながる活動を展開。
- ・境港市夕日ヶ丘地区では平成27年より毎年「水辺で乾杯」（7月7日に水辺に集まり午後7時7分に全国一斉に乾杯）を実施。



4 これまでの取組み

(1) 鳥取・島根広域連携協働事業〔鳥取県・島根県〕

- ・平成24年度は両県NPOの共同体が提案した「中海の魅力ある文化」再発見・体験・創造事業を、鳥取・島根広域連携協働事業として採択し、支援。
- ・平成24年6月にはこの事業の一つの「中海オープンウォータースイム」が開催され、以降両県で後援している。
- ・平成28年度、29年度の2ヵ年事業で、鳥取県、島根県の民間団体2者による「藻が〜る一鬼太郎もびっくり！ご縁を結ぶ中海のお・ご・の・りー」事業を実施中。
- ・海藻の回収、利活用について広く情報を発信、共感者から寄付を募集。

(事業内容)

- ・農家等に対する勉強会の開催
- ・環境学習の実施
- ・水質や生物への影響検証 等

(2) 日本風景街道〔湖水街道推進会議〕

【平成22～25年度】

- ・島根県内の風景街道ルートにルート案内看板や二十社寺案内看板を整備。
- ・道の駅9箇所に、風景街道ルート名大型看板、ルート地図板、PRブースを整備。
- ・道の駅「本庄」近傍、外2箇所にビュースポット（東屋、風景解説板、ベンチなど）を整備。
- ・大山寺付近に二十社寺案内看板1基を追加

【平成26年度】

- ・日本風景街道大学しまね校開催

(3) 中海海開き〔NPO法人未来守りネットワーク〕

- ・中海周辺の地域住民等を対象に、中海の浅場の水質改善により生き物たちが戻り始めていることを体感させ、今後の中海再生に役立てるため、平成22年度からNPO法人主催で実施。



(4) かわまちづくり〔国土交通省〕

- ・夕日ヶ丘地区において「かわ」と「まち」が一体となった環境をより一層生かすため、平成28年3月に『夕日ヶ丘地区中海かわまちづくり計画』を登録し、平成29年度より国による親水護岸、管理用通路、市によるベンチや植栽等の整備を実施。計画策定にあたって組織された協議会には、地元住民や子供会の代表者などが参加し、水辺の利用を通じたまちづくりについて議論がなされ、計画に盛り込まれた。



(5) 中国の学生視察の受け入れ〔認定NPO法人自然再生センター・島根県〕

- ・中国の学生による中海の茂刈り体験を実施。中海に繁殖し過ぎた藻を、伝統的な手法で刈りとり、畑の土壌改善資源として有効活用する循環型システムの意義を伝えた。

※（公財）日中友好会館が実施する「JENESYS2.0」による学生視察



(6) 中海・宍道湖の食を広めよう会〔認定NPO法人自然再生センター〕

- ・中海や宍道湖に生息する魚介類などの「食」を通じて、中海の環境について、住民等に身近に考えてもらうイベントを開催。